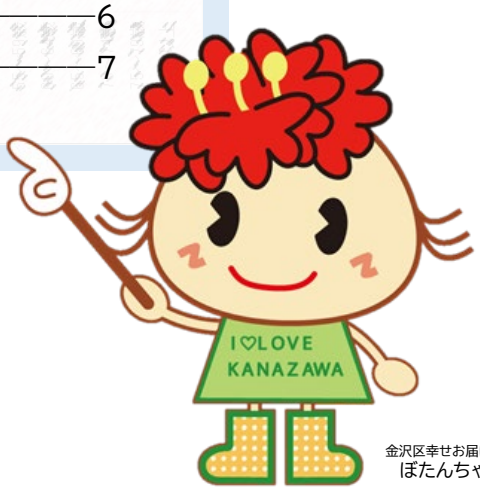
金沢区地区別データ集

データde富岡第一

DATA de KANAZAWA

目次

1. 地区の概況――――――――――1
2. 町丁別人口世帯の動向――――2
3. 地域の施設等の分布状況――3
4. 年齢別人口と人口移動――――4
5. 世帯の状況と居住歴――――6
6. 地区の特徴と動向――――――7



金沢区幸せお届け大使
ぼたんちゃん

令和7年1月発行
金沢区地域振興課地域力推進担当

１．地区の概況

図１　地区の位置

*地形図は国土地理院　基盤地図情報（数値標高モデル）5m メッシュにより作成。

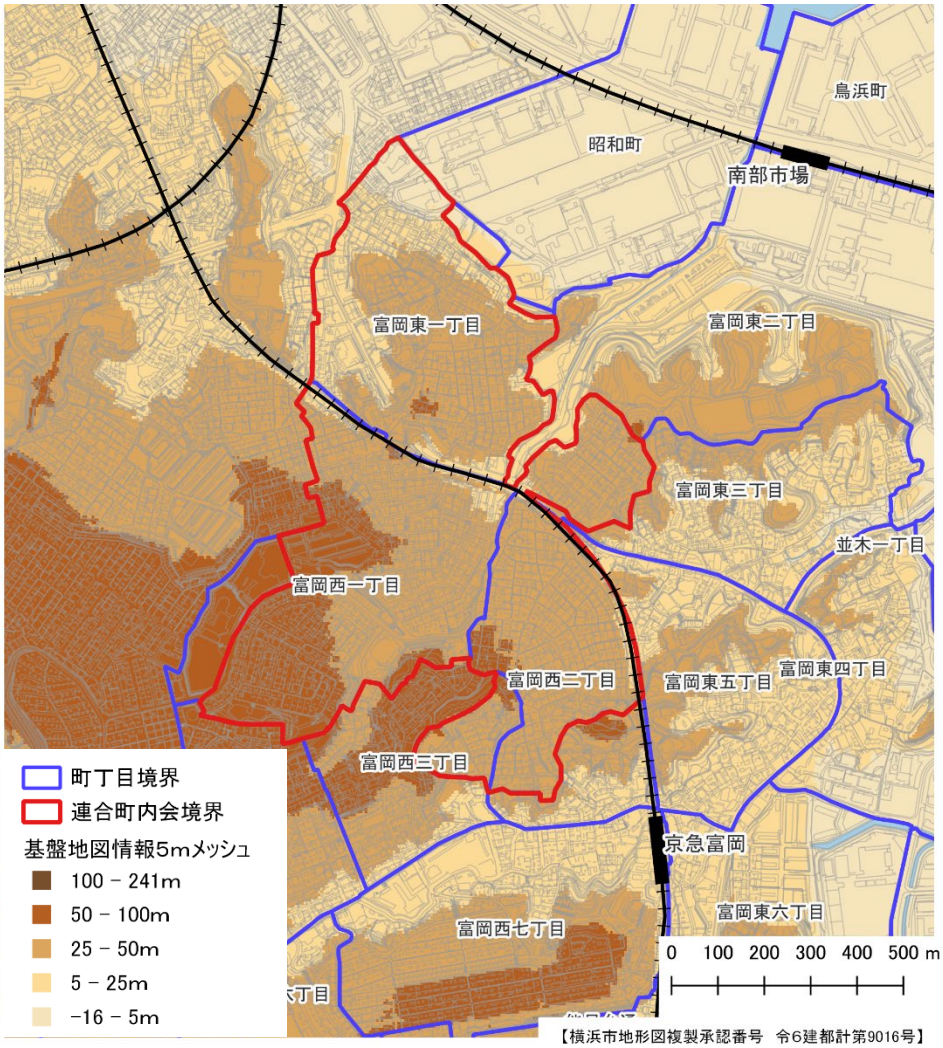


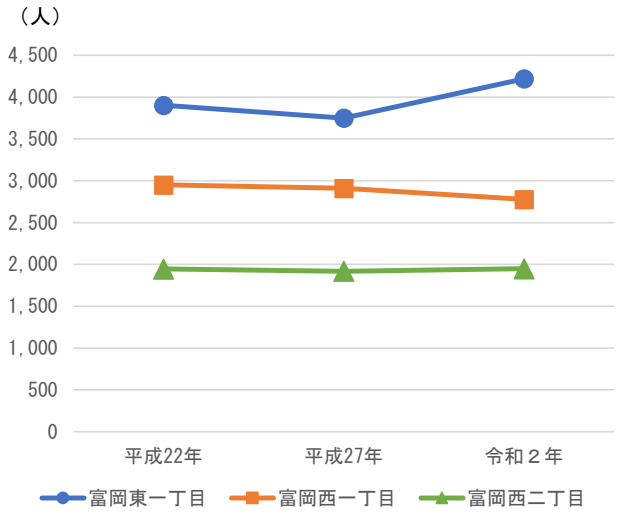
表１　人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成22年	平成27年	令和２年	平成22～27年増減数	平成27～令和２年増減数	平成27年比率	令和２年比率	令和２年金沢区比率	令和２年横浜市比率
人口　（人）	8,798	8,578	8,946	▲ 220	368	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳　（人）	1,218	1,151	1,215	▲ 67	64	13.4	13.6	10.8	11.7
（内0～4歳）　（人）	426	369	402	▲ 57	33	4.3	4.5	3.7	4.4
15～64歳人口　（人）	5,887	5,542	5,523	▲ 345	▲ 19	64.6	61.7	57.4	61.3
（内20～24歳）　（人）	478	405	456	▲ 73	51	4.7	5.1	5.5	5.3
（内25～39歳）　（人）	1,942	1,663	1,545	▲ 279	▲ 118	19.4	17.3	13.6	16.5
65歳以上人口　（人）	1,646	1,846	2,041	200	195	21.5	22.8	29.5	24.4
（内65～74歳）　（人）	859	970	1,090	111	120	11.3	12.2	14.4	11.6
（内75～84歳）　（人）	602	613	643	11	30	7.1	7.2	10.5	8.8
（内85歳以上）　（人）	185	263	308	78	45	3.1	3.4	4.5	4.0
世帯数　（世帯）	3,666	3,617	3,920	▲ 49	303	－	－	－	－
平均世帯規模　（人／世帯）	2.40	2.37	2.28	－	－	－	－	－	－

*国勢調査による（各年 10 月 1 日現在）。
*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2．町丁別人口世帯の動向　＊「国勢調査」による（各年 10 月 1 日現在）。

図２　町丁別人口の動向



富岡第一地区には、令和２年 10 月現在 8,946 人が暮らしています。世帯数は 3,920 世帯、平均世帯規模は 2.28 人/世帯です。（表 1 参照）

地区全体としては、平成 22～令和２年の期間でみると、人口は減少から増加に変わり、世帯数も増加しています。

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成 22 年の 2.40 人/世帯から令和２年には 2.28 人/世帯となっています。（表 1 参照）

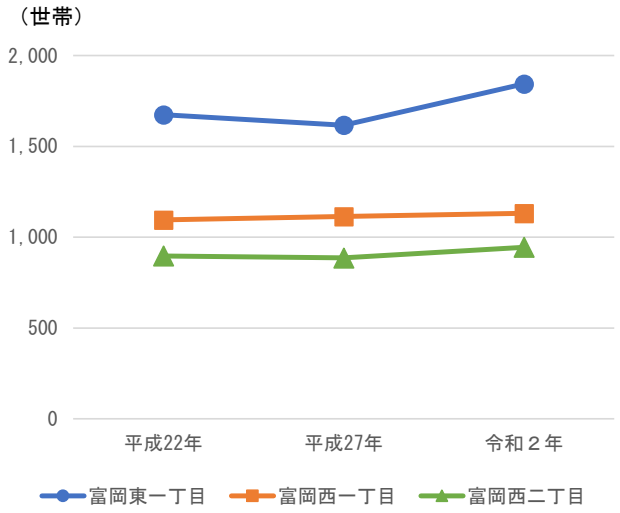
令和２年時点の 65 歳以上の人口比率（高齢化率）は、22.8％で横浜市全体（24.4％）や、金沢区全体（29.5％）を下回っています。この理由は 40 歳代の人口が 1,404 人と多いためと考えられます。（図 6 参照）

高齢化率は 5 年間で約 1.3 ポイントの上昇※にとどまりました。

0～14 歳の人口（年少人口）、15～64 歳の人口（生産年齢人口）は平成 22 年から平成 27 年にいずれも減少しましたが、平成 27 年から令和２年には 0～14 歳は増加しています。（表 1 参照）

※金沢区の高齢化の上昇は 2.8 ポイント、横浜市の高齢化の上昇は 1.1 ポイントとなっています。

図３　町丁別世帯数の動向

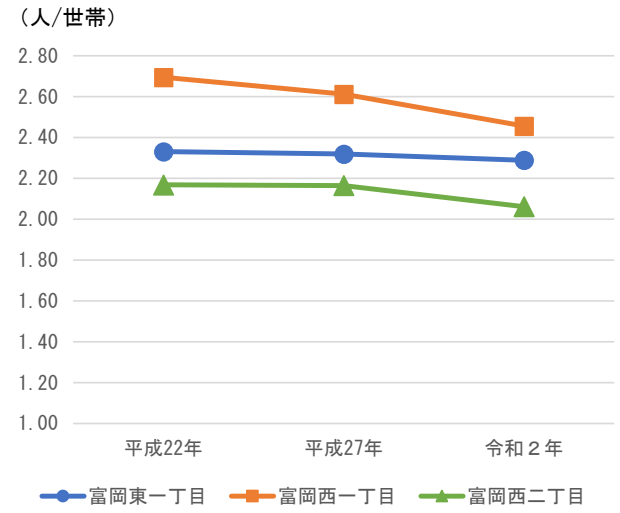


富岡第一地区には３町丁が含まれています。

富岡東一丁目は平成 27 年から令和２年にかけて人口、世帯数とも増加しました。

富岡西一丁目、二丁目は人口、世帯数とも安定しています。（図 2,3 参照）

図４　町丁別平均世帯規模の動向



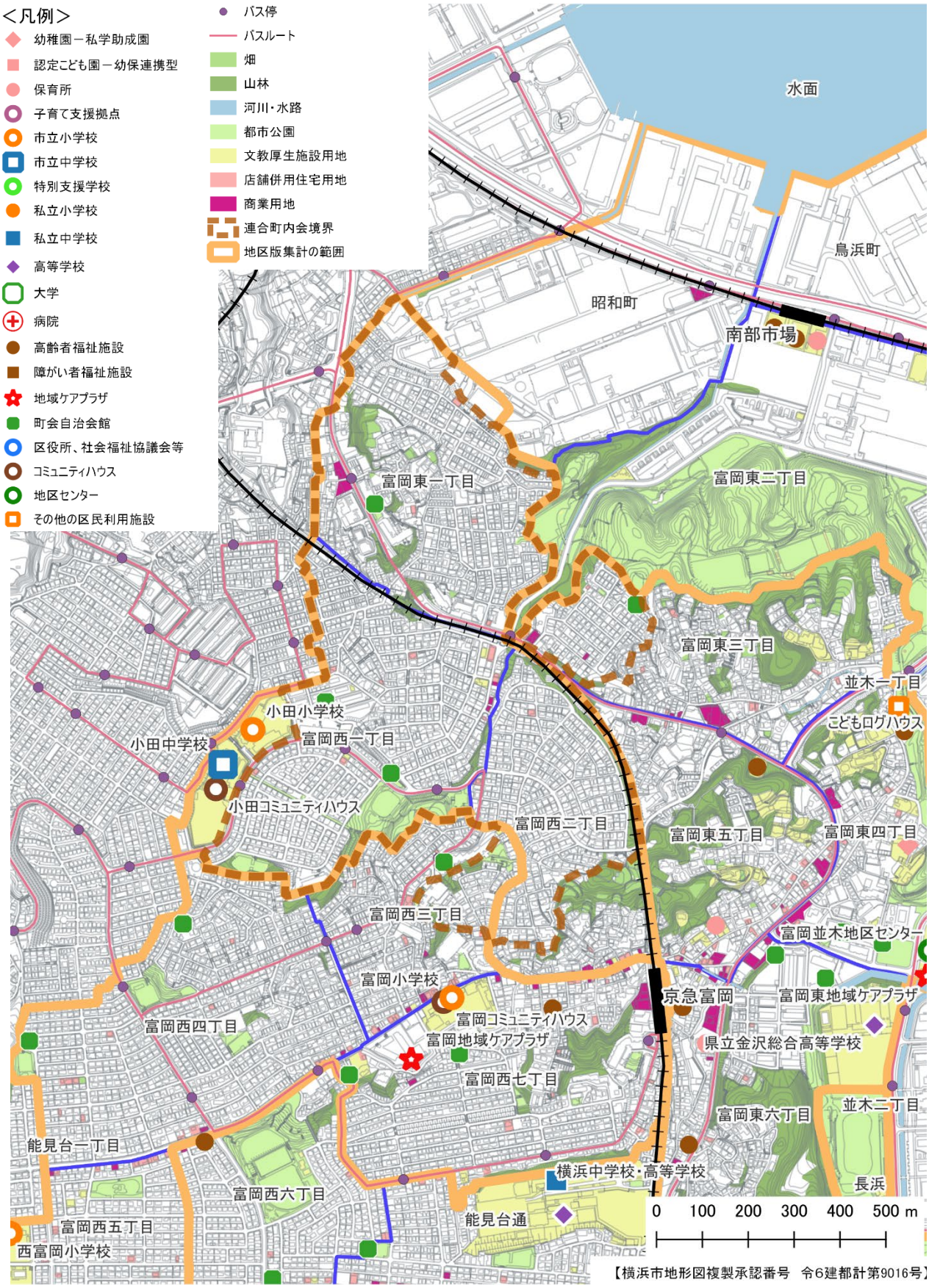
富岡西一丁目の平均世帯規模は、区の平均を上まわっていますが、緩やかな縮小が続いており、減少幅が大きくなっています。

富岡東一丁目、富岡西二丁目は、平均世帯規模が富岡西一丁目と比べて小さくなっています。（図 4 参照）

3．地域の施設等の分布状況

図５　地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
*施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4．年齢別人口と人口移動

＊年齢別人口は国勢調査による（各年10月１日現在）。
＊移動人口は平成30～令和５年の人口移動集計結果による。

図６　年齢５歳別の人口の変化

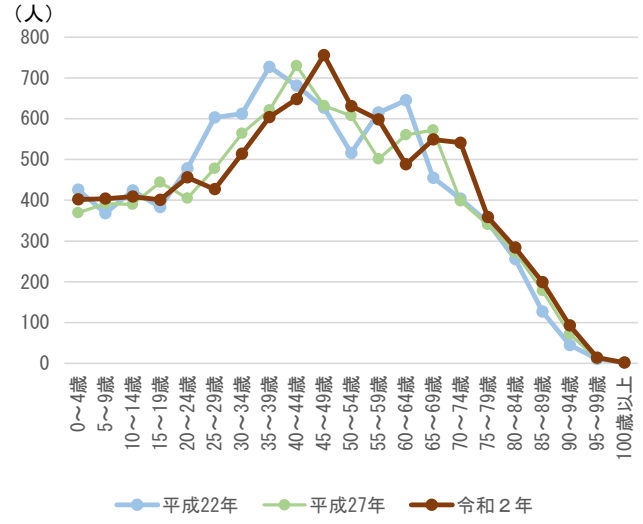
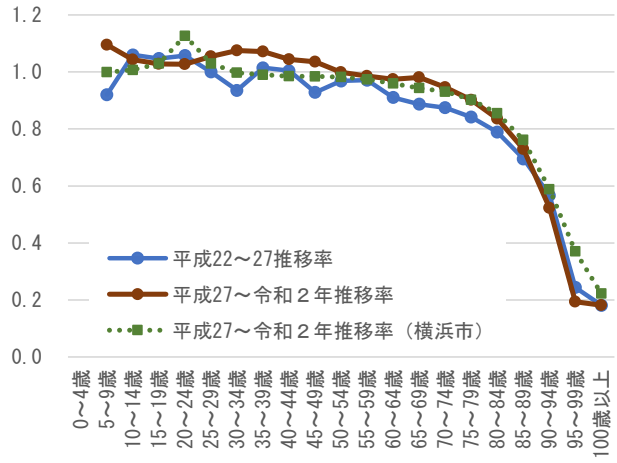
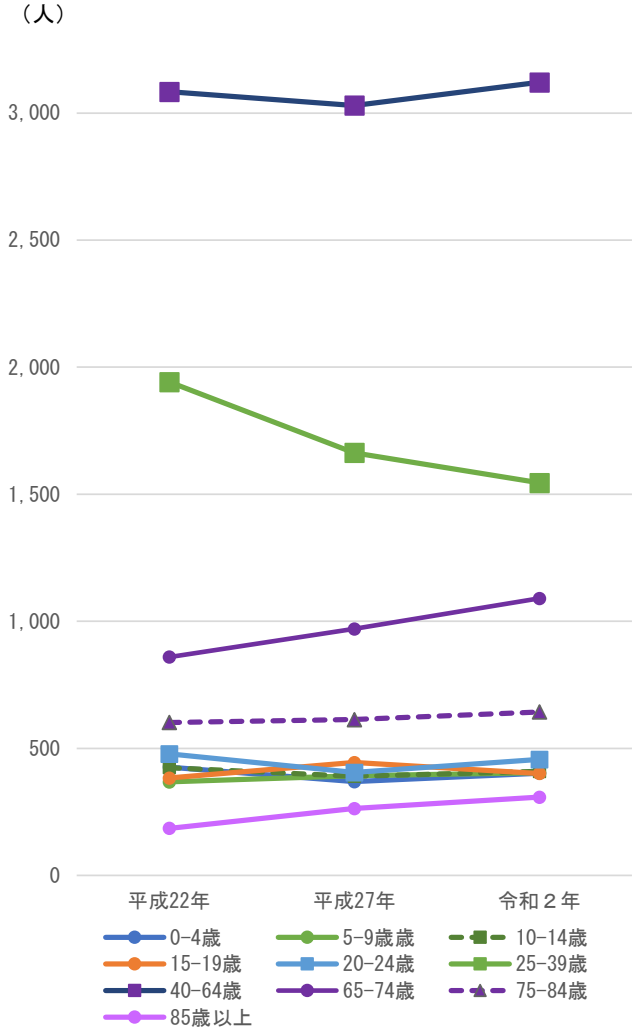


図７　年齢５歳別の人口の推移率



*推移率：上記の場合は、年齢５歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって５年後に１階級高齢の人口になる割合。

図８　年齢別人口の変化

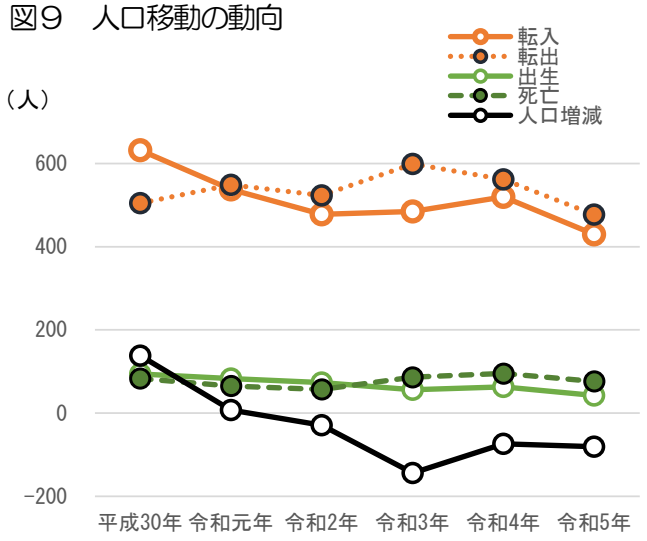


富岡第一地区は令和２年時点で 40 歳代後半に年齢別人口のピークがあり、定住化、高齢化（山が右に移動）しています。(図６参照)

また、年齢別人口の推移率をみると、平成 22～27 年の期間は 30 歳代前半、40 歳代後半に転出減少傾向がありましたが、平成 27～令和２年の期間は 30 歳代前半を中心に転入増加するようになりました。(図７参照)

年代別の人数の増減をみると、25～39 歳(子育て世代)が減少傾向にあることが分かります。また、40～64 歳は微増傾向、65～74 歳は増加が著しくなっています。(図８参照)

図９　人口移動の動向

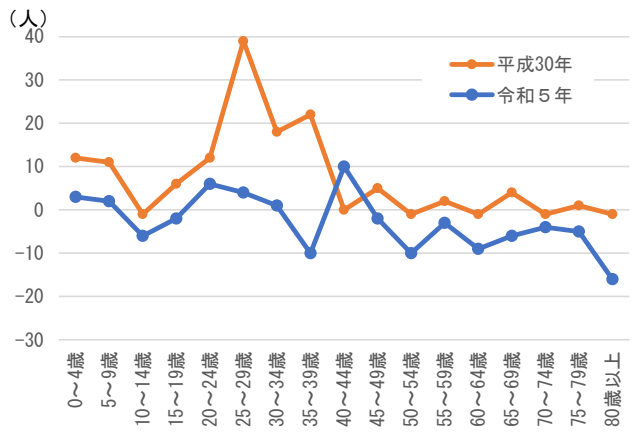


人口移動の動向をみると、社会移動では平成 30 年は転入が転出を上回っていましたが、令和元年以降は転出が転入を上回りました。

自然増減では、令和２年までは出生が死亡を上回っていましたが、令和３年以降は出生が死亡を下回っています。

社会増減、自然増減を合わせた人口増減は、令和３年に転出が転入を大幅に上回り、大きな人口減が見られましたが、令和４年以降は減少幅が小さくなっています。(図９参照)

図 10　年齢５歳別社会移動人口の動向



平成 30 年と令和５年の年齢５歳別社会移動人口の動向をみると、平成 30 年は 25～29 歳の増加が多く、40 歳以降では大きな増減は見られませんでした。一方、令和５年は 40～44 歳の増加が多く、45 歳以降は減少が多く見られています。(図 10 参照)

5．世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による（各年 10 月 1 日現在）

図 11　6歳未満の子どもがいる世帯の動向

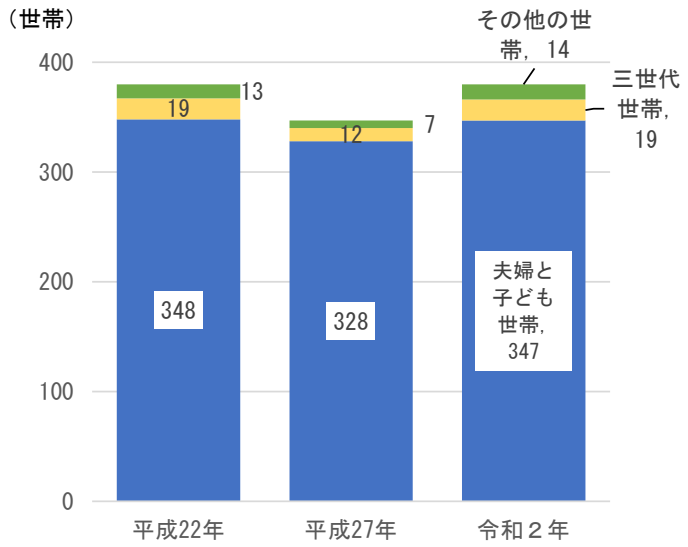


図 12　65 歳以上の高齢者がいる世帯の動向

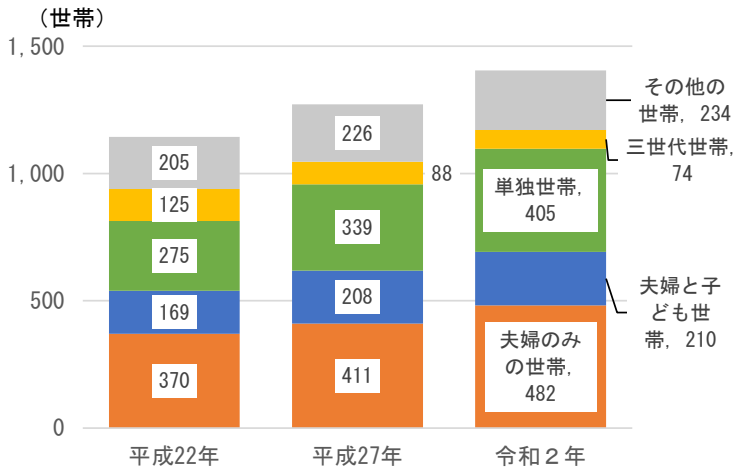


図 13　住宅の所有関係別の世帯の動向

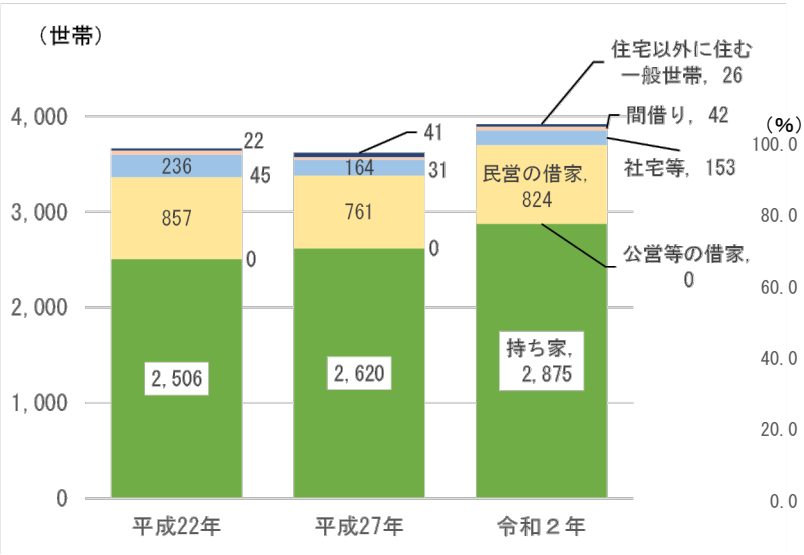


図 14　住宅の建て方別の世帯の割合（R2）

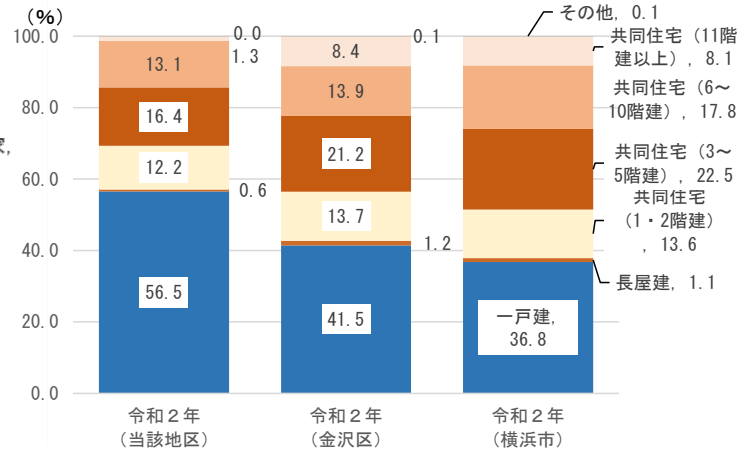


図 15　規模別世帯の動向

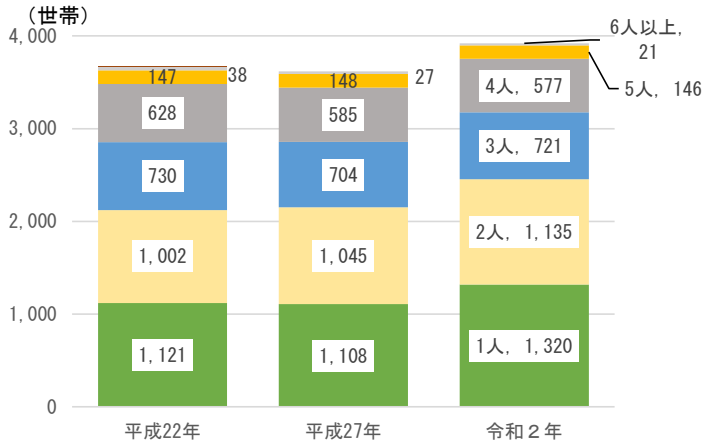
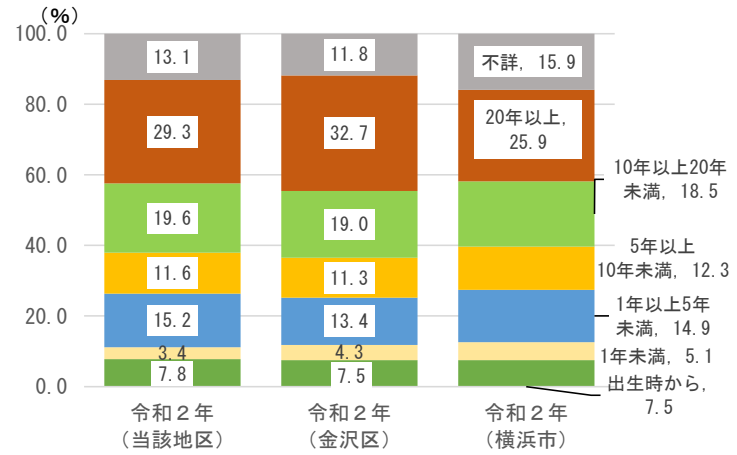


図 16　居住期間別人口の動向（R2）



6．地区の特徴と動向

富岡第一地区は、京急線をはさんで丘に形成された住宅地です。

平成 22 年から平成 27 年は、6 歳未満の子どものいる世帯はやや減少しましたが、令和２年には微増傾向に転じました。6 歳未満の子どものいる世帯（380 世帯）の 91.3%が核家族になっている事がわかります。（図 11 参照）

65 歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向が見られます。令和２年の 65 歳以上の高齢者のいる世帯 1,405 世帯のうち、34.3%が夫婦のみの世帯、28.8%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の 63.1%を占めています。（図 12 参照）

住宅の所有関係別では、令和２年は持家に住んでいる世帯が 2,875 世帯で最も多く、増加傾向にあります。民間の借家に住む世帯は 824 世帯あります。社宅（給与住宅）に住む世帯が 153 世帯あります。（図 13 参照）

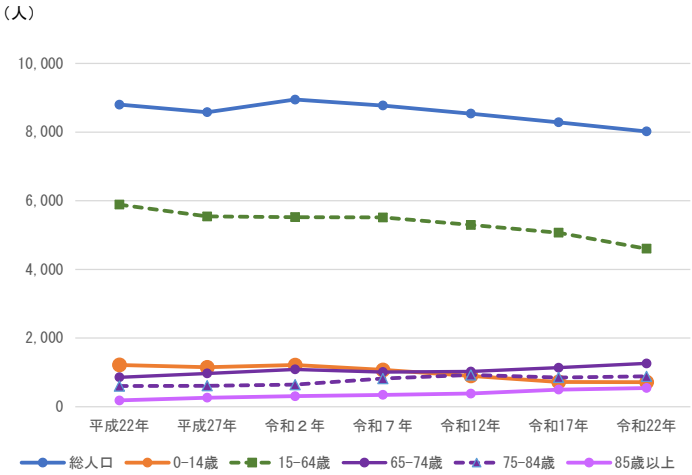
令和２年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、一戸建住宅が中心で 56.5%の世帯が戸建て住宅に住んでいます。金沢区全体の一戸建住宅の割合（41.5%）と比べると 15 ポイント以上高くなっています。（図 14 参照）

富岡第一地区は金沢区全体と同様に、居住期間が長い人の割合が高い傾向が見られます。令和２年時点で、居住期間が「10 年～20 年未満」（19.6%）と「20 年以上」(29.3%) の比率を合計すると 48.9%になります。（図 16 参照）

人口全体の動向と推計をみると、平成 27 年から令和２年は人口が微増しましたが、令和７年以降は緩やかに減少するものと推計されています。（図 17 参照）

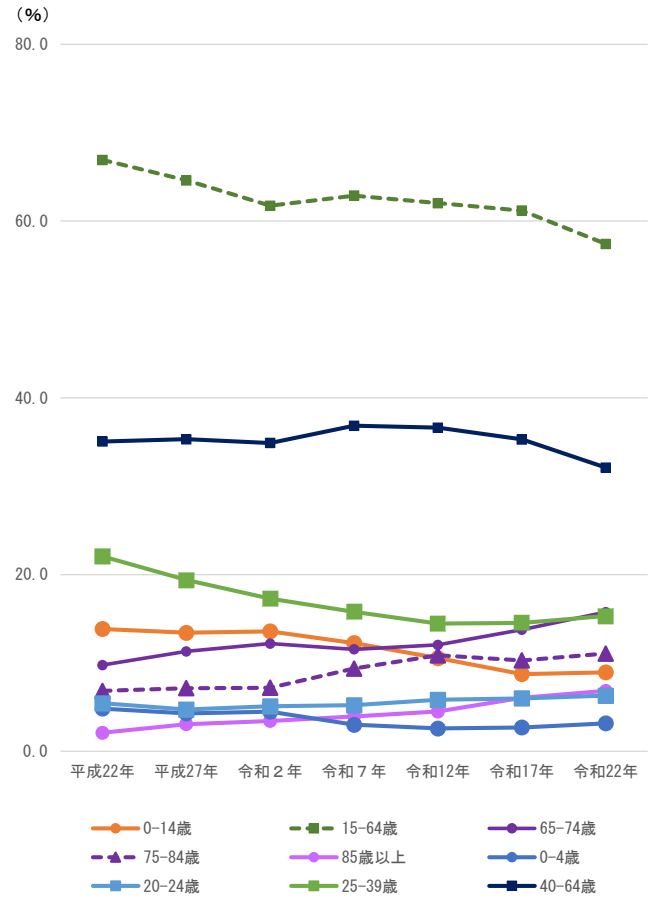
今後は後期高齢者、特に 85 歳以上の人口が増加し続け、年少人口、生産年齢人口は減少するなど、人口構造に変化が見られると推計されます。（図 17, 18 参照）

図 17　人口の動向と推計



※平成 22 年～令和２年は国勢調査の実績値。令和７年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値（国勢調査を用いたコーホート変化率法）。

図 18　人口の動向と推計　年齢別比率



※平成 22 年～令和２年は国勢調査の実績値。令和７年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値（国勢調査を用いたコーホート変化率法）。